

実習はAコースとBコースの二つが用意されており、事前に自分の希望するコースを選択できました。今回は私の参加したBコース「強誘電体の履歴曲線の測定」について報告します。

まず強誘電体についての講義があり、その後、図1に示すような回路の作製実習に入り、動作チェックを行います。うまく回路ができあがっているのを確認した後、最後に作製した装置とオシロスコープを用いて、実際に強誘電体試料の履歴曲線を測定するというものでした。

試料は硫酸グリシン (TGS : $T_c = 49$ 度) 単結晶から切り出した平板の両面に金を電極として真空蒸着したものをしました。図2が生データのデータであり、このようなループ (P-E履歴曲線といい、縦軸に分極P, 横軸に電場E) が得られました。最後にこの試料の温度特性を観察し、実習を終えました。

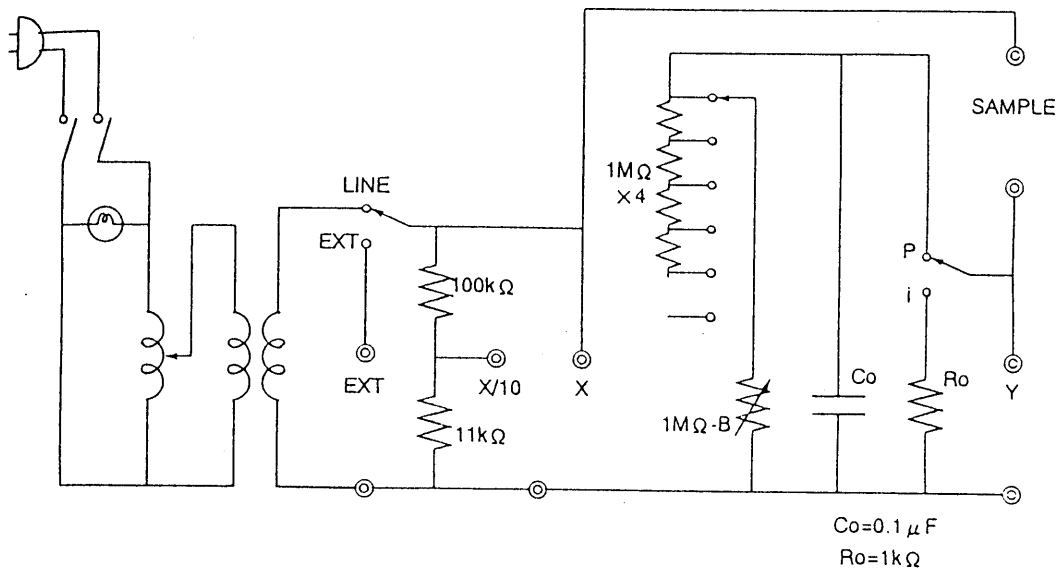


図 1

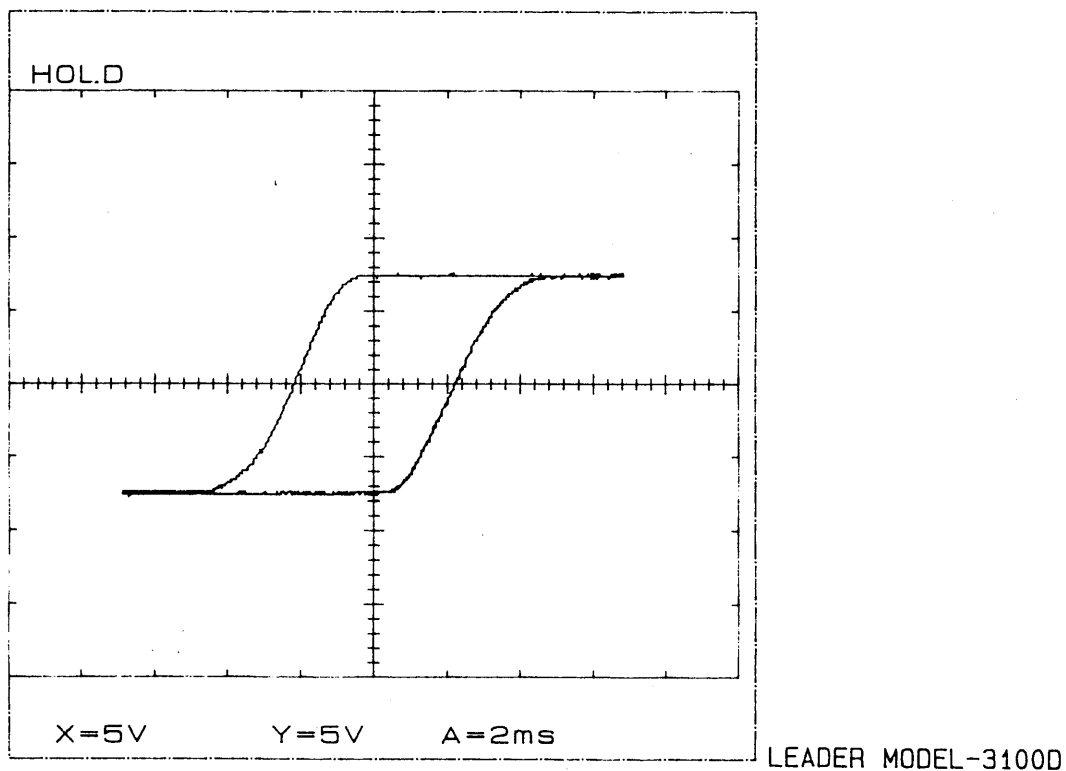


図 2

今回の実習によって、誘電体に関する知識を深めることができ、また、回路作製の技術も習得することができ、私にとってたいへん貴重な経験となり、今後の職務に充分活用できる実習であったと思います。

そして今回の研修によって富山大学の皆様をはじめ、他大学の技術職員の方々とも交流をもつことができるなど、得るものがたくさんあった有意義で思い出に残る研修となりました。

最後に、研修全般を通してお世話になった富山大学の教職員の方々に感謝いたします。